

事業報告書

平成22年4月1日～平成23年3月31日

学校法人 大阪学園

事業報告書

1. 法人の概要

(1) 設置する学校・学部・学科等

- ①学校法人 大阪学園 大阪高等学校
- ②全日制普通科 文理特進コース
総合進学コース

(2) 入学定員、生徒数の状況

- ①学則定員 1,500名 募集定員 960名 (320名×3学年)
- ②入学定員 募集生徒数(定員) 320名
平成22年度入学 349名
定員充足 プラス29名
- ③生徒数の現状 平成22年度 定員 960名

1 学年 349名
2 学年 604名
3 学年 535名
1,488名

(3) 学園役員並びに教職員の概要

- ①学園役員 理事(理事長以下) 6名
監事 2名
評議員 14名

- ②教職員 教員(教諭) 52名
常勤講師 20名
非常勤講師 35名
事務職員 6名
校務員 1名
合計 114名

2. 事業の概要

(1) 設備計画の進捗状況

- ①北館物理・化学・生物教室及び東館の冷暖房改修
- ②校庭の改修
- ③北館黒板改装

- ④東館 2・3 階内装塗装改修
 - ⑤第 3 グランド体育授業用日陰設備設置
 - ⑥南新館の机・椅子設備 (350 脚)
 - ⑦体育館西クラブ備品倉庫建替え
 - ⑧南館北側桶修理及び防球ネット修理
 - ⑨体育授業女子ダンス用姿見設置
 - ⑩防犯カメラ追加
 - ⑪その他 11 件
- 金額合計 54,000 千円

(2) 学校改革について

今年度は男女共学 3 年目であり、実質上完全に共学校となった。重要課題に位置付けていた女子生徒の進路決定率は、92.2% < 大学 51.0%、短大 16.7%、専門 (医看) 7.4%、専門 (医看以外) 14.2%、就職 2.9% > と高く一期生としては予想を上回る成績であった。改革の目標である「K (国公立・関関同立) 30 中堅私大 100」については、K30 はまだ努力が必要であるが、中堅私大 100 は既に突破した。「知育、徳育、体育のバランスのとれた教育」という建学精神を理念に、面倒見のよい教育、きめ細かな教育—自ら課題を見つけ、自らの「解答」を新たに創り出していく < 自学自習 > を追及する教育に主眼を置き、各センター・学年・教科並びに広報部等の連携のもと、今後もさらなる改革を行っていく。

(3) 授業評価について

本年度も生徒による授業評価を行った。評価の低い教員については、原因の分析と管理職による面談を通じ授業内容の質の向上を図るよう徹底した指導を行った。

(4) 学校評価について

平成 22 年度に初めて学校評価を行った。評価内容を分析した結果、①学校行事の充実、②早期からの学習支援・進路支援の充実、③教師間格差・クラス間格差克服の 3 項目の改善が必要であるとの指摘が挙げられた。本学園ではこのような結果を真摯に受け止め、評価内容の更なる充実を図り、「魅力ある学校」を目指すこととする。

(5) 平成 22 年度生徒募集について

本年度については、受験者数は 1688 名と多かったものの、公立・私立高校の競争により、受験者数が定員を割る公立高校が増加したことから、併願者の戻りが大幅に少なくなり、結果的に本学園の入学者数は 449 名となった。

来年度は、専願者・併願者のバランスを考慮し入学者数 500 名を目指す。

3. 理事会の活性化による学園運営の改善

平成 22 年度は故榊名誉校長が他界された後を受け、新たに岡本博副校長を新校長（理事）に、檜尾興一事務長を理事に昇格させ、理事 6 名体制とした。理事会は原則として毎月開催することとしており、今年度は教育内容の充実、教職員の質の向上、リスク管理の強化、財務体質の強化など各種重要課題を取り上げ、学園の改革及び経営体質の強化を図ってきた。

今後も、めまぐるしく変わる教育環境に素早く対応できる柔軟な経営基盤の構築を目指す。

4. 財務の状況

男女共学になった年から入学者数が大幅（平成 20 年度 621 名、平成 21 年度 651 名・・・）に増え、1～3 学年の生徒数が増加したことにより授業料収入が増加、また経費の削減など財務体質の改善に取り組んだ結果、消費収入超過額は 130 百万円となり、良好な決算となった。詳細は別紙計算書類（消費収支計算書等）の通りである。